

### ダム事業 長良川への流出変更も 環境に配慮、検討

## 事業監理会 環境に配慮、検討

第二回木曾川水系連絡導水路事業監理検討会が七日、名古屋市中区の水資源機構中部支社で開かれ、利水として通常時、徳山ダムの水を木曾川に送る途中、長良川に流すとしていた計画を、環境面

などから長良川に流さずそのまま木曾川へ流す案も、環境リポートを作成する段階で検討することになった。

途中の長良川で流す計画だが、四ノをそのまま木曾川まで流し、長良川に流す場合は異常洪水時とする案についても追加検討することになった。

この中で、徳山ダムから加茂郡坂祝町の木曾川までの上流導水路約四十三キロについて、計画では毎秒四秒の水のうち、同〇・七秒を

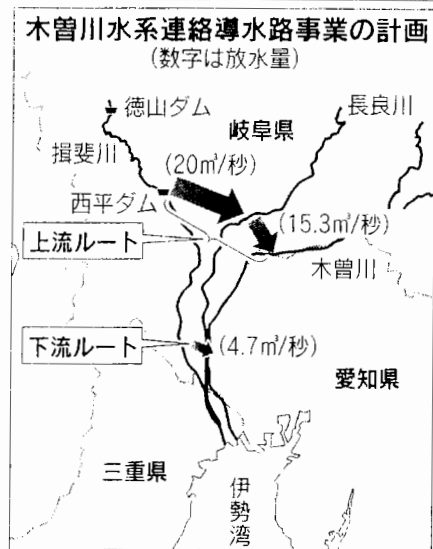
環境リポートを作成するため、住民や漁業関係者から意見聴取する段階で、長良川のイメージ悪化、環境変化に対する懸念が出た

同事業では、羽島市南部の長良川から木曾川に下流導水路約一キロを計画しているが、全体計画に変更はないとしている。

### 木曾川 導水路計画

## 「長良川へ放水せず」

### 水資源機構など 新提案を検討



岐阜県揖斐川町の徳山ダムの水を木曾川や長良川に流し、愛知県や名古屋市への影響や都市用水に充てる「木曾川水系連絡導水路事業」について、管轄する水資源機構や関係自治体などは七日、検討会を開き、環境

これを受け水資源機構は、通常の洪水時は長良川を経由せず直接、木曾川に放水し、異常洪水時に限り長良川へも流すこ

新たな案も検討していることを提案。この案だと電気が年間千三百万円抑えられ、五十年間では約一億三千万円の縮減につながるという。